

UNIRITA

Magazine

ユニリタマガジン

4

2018

新ビジネスコラム

すべての企業に
「データモデリングのプロ」を

システム管理者の会

すべての企業が
IT を武器にする時代の
エンジニア魂を応援します

業務課題解決ソリューション

クラウドレポーティングソリューションを
利用してクイックスタート!

現場に負担のかかっている経営情報可視化の
業務改善方法、教えます。

UNIRITAユーザ会

第35回UNIRITAユーザシンポジウム
開催報告

UNIRITAパートナービジネスのご紹介

2018年度もパートナーの皆さまと共に
コンサルから運用・インフラまで
カバーする提案を目指して

すべての企業に「データモデリングのプロ」を

再び注目されている「データモデリング」

自社の競争優位の獲得に向けて、企業の内外に存在する大量のデータを適切に管理する「データマネジメント」の取り組みは一般化しつつあります。しかし、メインフレームとリレーショナルデータベースが主流であった半世紀近く前から用いられてきたデータモデルは、「システム開発のために必要なドキュメントのひとつ」といった限定的なイメージが今でも残っています。複雑化するビジネスとテクノロジーを戦略に活かすEA (Enterprise Architecture)策定においてデータアーキテクチャの検討が重要成功要因であるように、現在ではデータ活用のための情報系データモデリング、マスターデータマネジメントに代表されるデータ統合やデータ流通基盤(データHUB)のためのデータモデリング、メタデータ管理のためのデータモデリングなど、モデルそのものの利用局面はデータマネジメント全般にわたっています。

「データモデリングのプロ」が果たす役割

データモデリング自体は特殊な技術ではありませんが、データが非常に抽象的な(データは実際には触れることができず、捉えどころがない)存在であるために、組織横断、グローバルレベルでの情報活用、外部データの活用において、「顧客データはこういうもの、商品データや受注データとはこういうもの」と定義し、それを共有しながら業務をしていたとしても、ステークホルダー間では細部の認識に「差」が存在します。その「差」をデータモデリングによって明らかにし、課題を調整し、本来のあるべき姿に落とすファシリテーションが「データモデリングのプロ」に求められる重要な役割となります。

データモデルに必要な要素

では、データモデルにはどんな要素が記述されるべきでしょうか。答えは非常にシンプルです。表記法やツールに依存することなく、どんな局面であっても「エンティティ(管理対象)」と「リレーションシップ(エンティティ間の関係)」の2つを押さえれば良いのです。

図1:エンティティ(管理対象)

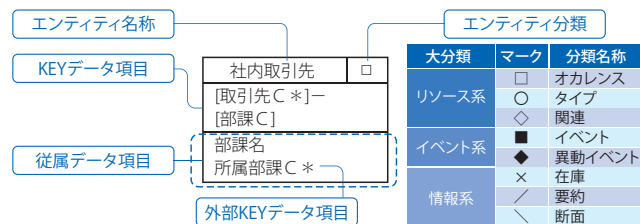
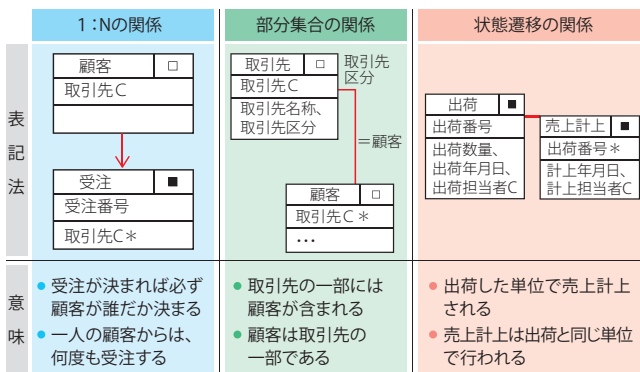


図2:リレーションシップ(エンティティ間の関係)



データモデリングで求められるスキル

前述のようにモデリングで押さえるべき要素は2つですが、データモデリングを進めるにあたり、現状調査ステップ、課題抽出ステップ、課題解決ステップそれぞれで求められるスキルが異なるため、データモデリングは「職人技」であるともいえます。一般的に職人技は、「手法や手順」、「ポイント」、「成果物」が明確でなく、何をどう進めれば良いかわからないため、習得には相応の時間を要します。データモデリングにおいても実務の中でしか得られない経験、ノウハウはあります。しかし、事前にやるべきことを学習できれば遠回りはしなくて済みます。

次にデータ総研が提供するその教育プログラムをご紹介します。

「どう実務に適用するか?」を中心に教育する「データモデリングのプロ養成プログラム」

データ総研では、これからのデータモデリング教育を考えるにあたり、実務でデータモデリングを適用していただくためにどのようなカリキュラムを用意し、受講者にどう臨んでいただくべきかを検討しました。そして、初めての実践の場でも正しいモデルをアウトプットできるスキルを身に付けていただくための新しい教育プログラムを開発しました。

図3:これからのデータモデリング教育

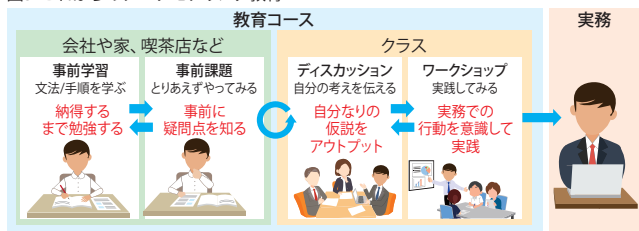
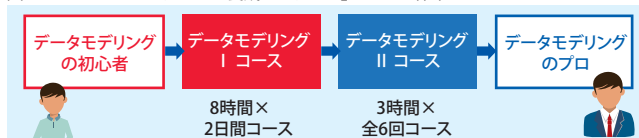


図4:「データモデリングのプロ養成プログラム」のコース体系



●データモデリング I コース

データモデリングの根底にあるDOA (Data Oriented Approach) の考え、データモデリングの詳細な文法、および分析手順について学んでいただきます(事前学習、事前課題あり)。

●データモデリング II コース

実務でデータモデリングを活用していくことを前提に、プロジェクトチーム内での共通認識の合わせ方、空中戦になっている会議のファシリテート、業務課題の抽出や新規業務設計の進め方を学んでいただきます(事前学習、事前課題あり)。

最後に

詰め込み式や知識を付与するだけの研修では人は育ちません。ビジネスの現場ではまだ見ぬ課題をどう乗り越えるかが求められます。皆様の企業内にも「データマネジメントをリードする「データモデリング」のプロ」を育てていこうではありませんか。

お問い合わせは、crm@drinet.co.jpまで。

担当者紹介

株式会社データ総研
取締役 エグゼクティブシニアコンサルタント
小川 康二

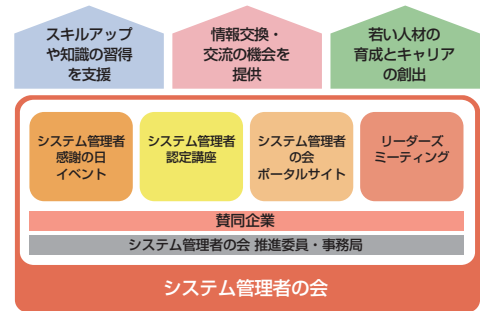
すべての企業がITを武器にする時代のエンジニア魂を応援します



企業内のITを支えるシステム部門は、もはやコスト削減や効率化だけではなく、ITを使ってビジネスの可能性を広げる役割を担うようになりました。そこで働くエンジニアには、システムの安定稼働を守るだけではなく、常に新しい技術を学び続け、プロのエンジニアとして企業のビジネスを牽引していくことが求められています。

システム管理者の会では、この姿勢を『エンジニア魂』と呼び、エンジニア魂を持つエンジニアの皆さまを応援していくことを指針に活動しています。

当会の活動を通じ、エンジニア魂を持つエンジニアの方々が生き生きと働き、会社や社会に貢献できるような裾野の広い活動の場と、若い方が憧れるような、ポジションやキャリアへの道しるべを創造します。



システム部門が必要とする人財とは？

日常的なITサービス維持を求められる、システム管理者。彼らの日々の通常業務は多く、トラブルに見舞われ急な対応を求められることもあります。日常の業務システム運用にあたり、ミスなしの要求に追われて、ルーティンワーク以外の取り組みができなくなりがちです。

技術進歩が目覚ましい変化の時代において、システム部門が必要とする人財には、ビジネスに貢献するチャレンジと変化が求められています。外の人たちと触れ合う機会を断ち、社内の狭い世界の中だけでまともしている人は、意識と行動の変化が必要です。

次のシステム管理者に求められるスキル

ビジネス貢献にチャレンジするには、技術知識を磨くだけでなく、活用するための「ヒューマンスキル」や「コンセプチュアルスキル」が求められます。ヒューマンスキルの代表的なものは、他者との円滑な意思疎通を図るコミュニケーション力や、チームや組織を主導するリーダーシップ力が挙げられます。また、コンセプチュアルスキルとは、知識や情報などを体系的に組み合わせて、複雑な事象を概念化することにより物事の本質を把握する能力を指します。このスキルは、チャレンジ活動に伴う未知で複雑な事象に対して効果を発揮します。

	1日目 ヒューマン スキル	2日目 テクニカルスキル ナレッジ編	3日目 テクニカルスキル 実践編	認定
上級 コース	事業とITの関係を理解し、全体を見通すことのできる人材を目指す方に。	コンセプチュアルスキル	ITサービスマネージャのための事業関係管理	顧客要件の分析とITサービスマネジメントの実践
中級 コース	IT組織内の活動をリードする立場で、運用改善の実践を主導できる人材を目指す方に。	リーダーシップスキル	運用管理者のためのプロジェクトマネジメント	運用改善プロジェクト計画立案の実践
初級 コース	システム運用管理を確実に実行できる人材を目指す方に。	コミュニケーションスキル	ITサービスマネジメント入門	効果的な運用プロセスの実践

体験を通じた実践的なカリキュラムで学べる「システム管理者認定講座」

当会では、国内初の「システム管理者のための講座」として「システム管理者認定講座」を開講しています。

本講座は、3日間のカリキュラムでシステム管理者に必要な知識や心構えを学び、最終日の試験に合格すると資格が取得できる、講義と資格認定が一体となったプログラムです。

ところで、資格取得となると座学による詰め込み式の学習をイメージしませんか？本講座は学んだことを現場ですぐに活用いただけるよう工夫をしています。一般的な資格取得セミナーとは異なるポイントを、2点お伝えします。

(1) 組織で求められるヒューマンスキルが学べる

システム管理者としての技術的な内容だけでなく、組織で働くビジネスパーソンに求められる「ヒューマンスキル」も講義しています。当然ながら認定試験の出題範囲にも含まれています。

(2) 体験を通じた実践的なカリキュラムで学べる

体験の中でスキルを習得していただけるように、ディスカッションやグループワークを講座カリキュラムに多く取り入れています。これらは、個人の勉強では取り組むことができません。普段社外へあまり出ない方にとっては、他社の方と交流し意見交換ができる絶好の機会となります。

900名を超える資格取得者を輩出した本講座を、ぜひ受講してみましょう。

第12回システム管理者感謝の日イベントの開催が決定！



当会では、「システム管理者認定講座」以外にも各種セミナーやイベントを開催しています。特に7月に開催する「システム管理者感謝の日イベント」は500名超が集まる一大イベントです。スキルアップに役立つ講演が聴けて、エンジニア魂を持つ皆さまと交流ができる絶好の機会です。詳しい内容は、後日お知らせします。

7/12 (木)
会場：大手町日経ホール

「システム管理者認定講座」の詳細情報とお申し込みはこちら

<https://www.sysadmingroup.jp/seminar/nintei/introduction/>





クラウドレポーティングソリューションを 利用してクイックスタート!

現場に負担のかかっている経営情報可視化の業務改善方法、教えます。

企業データの活用により業務の効率を上げる際に必要となる「経営情報の可視化」ですが、多くの企業ではExcelを使った手作業によるレポート作成のため、逆に情報の収集や加工といった作業が現場の大きな負担になっています。今回はユニリタのクラウドレポーティングソリューションを利用して、経営情報可視化業務を改善する方法をご紹介します。

昨今、話題の「働き方改革」。そのための業務改善として、特に日本の長時間労働の是正は急務となっています。企業でも、法改正への対応、過労死や健康被害、サービス残業などの告発による企業イメージのダウンなど企業リスクを回避するため、さまざまな取り組みが進められています。ある調査では、働き方改革を推進している企業の4割強が、取り組み施策として「業務の効率化」をあげており、働き方改革の実現には必要不可欠な施策であることが見て取れます。

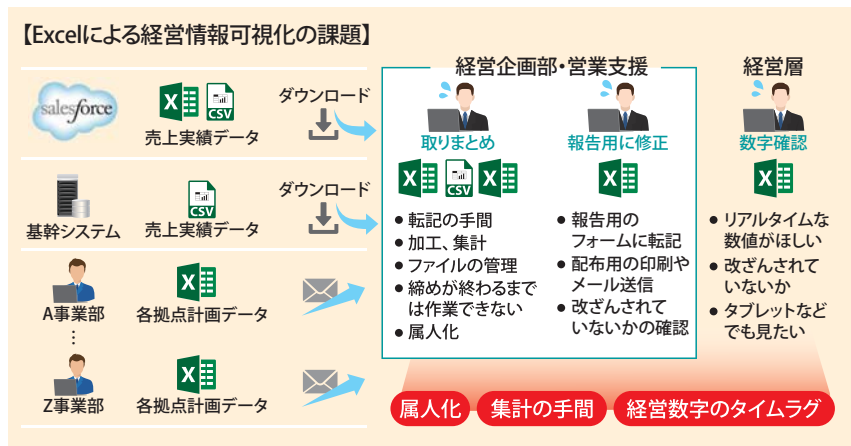
一方、ビジネスを推進する上で、さまざまな企業内のデータを活用して「経営情報の可視化」を実践し、経営方針の決定や施策の立案を行うことは、今や当たり前になっており、いかに企業データを活用して、業務の効率を上げるかが重要になっています。

ところがこの「経営情報を可視化する業務」ですが、業務の効率を上げることが目標にもかかわらず、情報の収集やレポートの作成などの作業が現場の大きな負担となっているという話をよく聞きます。

ユニリタで昨年実施した、Excel業務効率化セミナーのアンケートでも、1、2位の課題が「経営情報の可視化」「予算編成業務」となっており、経営企画部門でも経営情報の可視化、特にExcelによる手作業のレポート作成に課題がある企業が多いことが見て取れます。事実、経営企画部門では、50%以上が「週15時間以上」、20%以上が「週30時間以上」、10%以上の企業では「週50時間以上」も情報収集や資料作成に時間をかけているといったデータもあります。経営情報を可視化するためのExcelによるレポート作成業務に非常に工数を取られ、本来の活用(可視化されたデータの分析や施策の検討)にまで手が回っていない企業も多いのではないのでしょうか。

なぜExcelによる業務では時間がかかる?

では、なぜExcelによる業務では時間がかかるのでしょうか?



レポート作成業務では、まずレポートを作成するために、それぞれのシステム、例えば販売の実績データは基幹システム、案件に関するデータはSFAなどから、データを取得する必要があります。また経営情報としては、先行指標や予実管理の情報も合わせて可視化するために、各事業部門や拠点から計画データを集めなければなりません。Excelなどのファイルで集めたデータは別々のファイルですので、まとめるために転記が必要となります。また、すべてのフォーマットが同じであれば転記してすぐにまとめられますが、多くの場合システムや部門ごとにフォーマットが違ったり、項目が違ったりと、別途Excelで加工や集計をしなければなりません。しかもファイルは欲しいタイミングでもらえないことの方が少なくありません。「ちょっと待って」と待たされ、残業している姿などを見たことも多いのではないのでしょうか。

月末や月初になると経営企画部門や提出用のデータを取りまとめる営業支援などが夜遅くまで残ってExcelデータを作成しているといった光景は、こうしたことが原因の一端にあります。また、データを転記しただけではExcelのレポートは作成できません。マクロや手作業で報告用のレポートの形に成形する必要があります。

次に出来上がったデータを関係各所に配布するといった作業もあります。Excelファイルを特定のフォルダにアップしておけばOKといった場合であれば、まだ楽ですが、メールで送付したり、紙で印刷して配布となると、ここでも結構な時間がかかります。

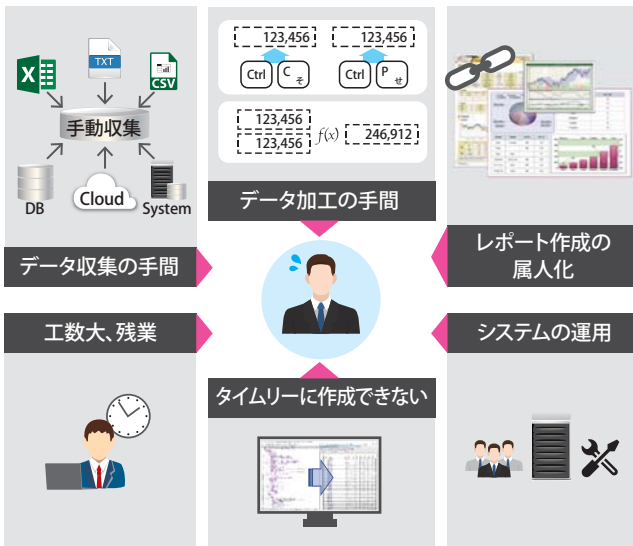
さらにはExcelファイルで配布した場合は、

- ・配布中に誰かが間違えて数値を変更/削除し、データが正しくなくなった
 - ・いったん作成したExcelに修正があって再度Excelファイルを作成して送っても、どのExcelが最新かわからなくなり、データのデグレードが起きた
- といったデータの正確性に関する問題も少なくありません。

このようにExcelでのレポート作成は、担当部門に「データ収集の手間」

「データ加工の手間」といった問題が存在し、その結果、時間や工数がかかってしまいます。しかも転記やExcelマクロの実行など随時手作業が発生するため、これら一連の作業を覚えて運用していく必要があります。手順書などのドキュメントを整備していけば、誰でも実施できるかもしれませんが、大抵の場合ドキュメント化されず、属人化していきいます。このため一時的に人手をいれて実施しようとしても、なかなか対応できないのが現状です。

その結果、担当部門の大きな負担となってしまい、業務の効率化どころか、本来の業務への圧迫にもなっています。



ここまで頑張って毎月レポートを作成しても、レポートを見る経営層からは、「もっとリアルタイムにレポートが見たい」「損益のレポートは週次、できれば日次で見たい」などさらなる要求が出てくることも多いのではないのでしょうか。

⇒ 関係各所で課題も解決策も違う

人手がかかっていることが問題であればシステムを導入して自動化すればいいということになりますが、単純にレポート作成のレポートツールだけを導入すればいいかというと、そうでない場合も多いです。

経営情報の可視化には、「レポートの作成」だけでなく、「データの収集」「レポートの配信」も必要となります。さらには、これらの仕組みに対してサーバを立てて導入となると、インフラ、ハードウェアの運用からアプリケーションの管理と、IT部門がかかわらないと運用が難しくなります。Excelでやっていたころは事業部門だけで運用できていたものが、IT部門に依頼することになります。一方、昨今のIT部門はリソースが限られており、新しいシステムの運用を始めるとなるとなかなか手が回らないといった問題もあります。たとえ運用の問題が解決していざ導入検討となっても、新しいシステムでは今まで使い慣れたExcelのフォーマットから別の仕組み(例えばWebなど)となるため、インターフェースが大きく変更となり、現場からの抵抗によってなかなか導入が進まないといったことも少なくありません。

⇒ 解決にはクラウドレポートソリューションでクイックスタート

これらの問題を解決するのがユニリタのクラウドレポートソリューション「経営情報可視化ソリューション」です。

「経営情報可視化ソリューション」では、Excelでレポートを作成する部分的なところだけでなく、「データ収集」「データの加工処理」「収集・加工されたデータからのレポート作成」をまとめて実現することができます。「データ収集」では、使い慣れたExcelファイルからのデータ取り込みが可能のため、現場の使い勝手を変えずにデータ収集・加工をおこなうことができます。

「経営情報可視化ソリューション」を用いることで、スケジュールによる実行や、ファイルやメールをトリガにした実行など、設定のみで自動化できますので、月末の締めや、現場からのデータの完成を待って残業する必要もなくなります。例えば、月末の31日中にデータを特定のフォルダに

アップしておけば、夜間に自動的に収集処理が走ったり、ファイルをアップしたタイミングで自動的に処理を行います。

出来上がったレポートはWebから閲覧できるため、レポートを見たい人は自由なタイミングで閲覧できるようになります。レポートの配信にかかっていた工数も不要です。リアルタイムにレポートが見られるだけでなく、日次の損益把握、さらには事業計画や販売予測のデータを組み合わせることにより、損益予測や先行指標も含めたレポートなども提供できます。

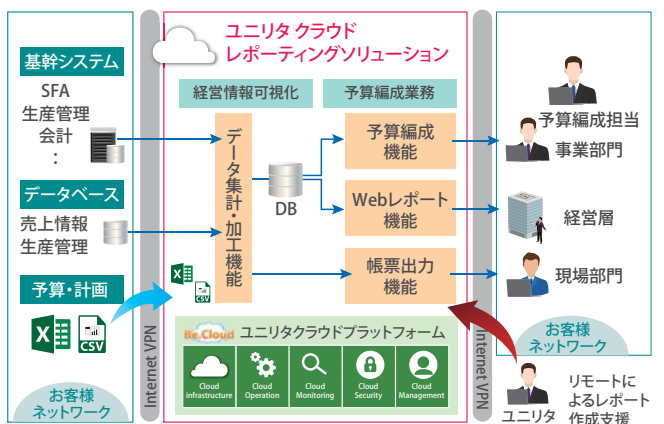
これらの機能は、お客様の業務に合わせて構築いただけるアプリケーションを、ハードウェア、OS、ネットワークインフラから、その運用監視までを含めて、PaaS (Platform as a Service) の形で提供しており、IT部門の工数を最小化した仕組みの構築、運用を行うことができます。

⇒ 「経営情報可視化ソリューション」の導入効果

- クラウドによる、ハードウェア、OS、インフラや監視などの運用サービスもまとめて提供されるので、クイックスタートを実現できます
- ハードウェアやOSの運用管理が不要なので、業務部門だけでも利用することができます
- インターフェース(Excel)を変えず利用できるため、現場の負担を増やすことなくデータの収集・加工・集計工数を削減できます
- データ収集からレポート作成まで自動化により、無駄な待ち時間や、遅延による残業などがなくなります
- お客様の業務特徴に合わせたカスタマイズができます。さらにレポート追加サービスで、リモートによるレポート作成支援が毎月受けられます

このように経営情報可視化ソリューションを導入することにより、レポート作成を担当する部門の業務効率の改善や、集めるデータを作成する事業部門の負担を軽減することができ、働き方改革を実現することができます。それだけではなく、経営情報可視化の業務改善により、本来必要な分析や、それをもとにした施策の計画や実現など、単なる業務改善だけでなく、本来の企業情報活用の促進にもつながります。

経営情報可視化が業務の負担となっている方、レポート作成で手一杯になり分析や企画など本来の業務ができていないと感じている方、ぜひユニリタまでご相談ください。



担当者紹介

プロダクト事業本部販売支援グループ
販売支援チーム
水原 正

第35回 UNIRITA ユーザシンポジウム 開催報告



去る平成30年3月1日から3日にかけて、第35回UNIRITAユーザシンポジウムをヒルトン福岡シーホークコンベンションホールにて開催いたしました。

3月1日は、春の嵐により全国的に大荒れの天気となり、交通機関遅延が発生したため、到着が遅れたお客様もいましたが、大きなトラブルもなく無事に開催することができました。

このような状況にもかかわらず、昨年より29名多い592名の方にご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



会期中は会場のメイン通路にパートナーズゾーンを設置し、協賛パートナー企業様にブースをご出展いただきました。各社とも最新のITトレンドに合わせた製品やサービス、ユニリタとの協業ソリューションなど多彩な展示内容をお客様にご説明されていました。また、より楽しんでブースにご訪問いただけるよう、豪華賞品が当たるビンゴ形式のスタンプラリーを実施し、非常に多くのお客様にご参加いただきました。



開催1日目のプログラムとしては、パートナーセッション、事例発表、ユニリタグループセッションがあり、それぞれのセッション会場ではテーマに沿ったプレゼンテーションが行われ、多くの方が熱心に聴講されていました。

セッションの間には協賛パートナー企業様によるPRタイムを開催し、パートナーズゾーンの出展内容や展示製品についてアピールいただきました。また、15時にはおやつとして山崎製パン株式会社様からたくさんのパンをご提供いただき、多くのお客様がお好みのパンを手に取り楽しんでいただきました。



夕食時に開催された情報交換会パーティーでは、通常のパーティー料理のほか、小岩井乳業株式会社様からチーズとヨーグルト、サッポロビール株式会社様からラムハイボールをご提供いただき、参加者に振る舞われました。美味しい料理とお酒でお客様もすっかり打ち解け、皆さま活発に名刺交換や情報交換を行われていました。



2日目には、研究発表、マネジメントセッション、講演会、パネルディスカッションが行われました。各研究グループの1年間に及ぶ活動の成果発表となり興味深いプログラムが目白押しでした。参加事前登録制のマネジメントセッションは、受付開始後、数日で満員御礼となり、当日は多くの方にご参加いただきました。

昼の講演会では、2008年北京オリンピック・陸上男子4x100mリレーの銀メダリスト 朝原宣治さんにご講演いただき、アスリートも競技に勝つためには、データ分析が必要不可欠だということなど、スポーツの世界にもIT活用が進んでいる現状をお話しされ、聴講者の関心を集めていました。



そして夜には表彰パーティーが華やかに開催されました。パーティーでは、スタンプラリーの豪華賞品当選者の発表や、柏原芳恵さんのショーで盛り上がり、イベントのクライマックスともいえる最優秀活動賞(IW02研究グループ:WEBマーケティングとビジネス連携)をはじめ、最優秀事例発表賞(株式会社匠Business Place様/株式会社カラース様)など各賞の発表となりました。

授賞された皆さま、おめでとうございます。残念ながら受賞に届かなかった研究グループの皆さま、ぜひ平成30年度の研究グループにご参加いただきリベンジを目指してください。

今回も非常に多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。これもひとえにご参加いただいた多くのお客様と、多くのお力添えをいただいた協賛パートナー企業様のおかげです。誠にありがとうございました。

来年も第36回UNIRITAユーザシンポジウムの開催を予定しておりますので、ぜひまたご参加いただけますようお願い申し上げます。



平成30年度の研究メンバの募集を開始!

UNIRITAユーザ会では、最新技術やシステムの管理手法・情報活用とシステム運用にまつわる永遠のテーマなどさまざまなテーマについて、1年間にわたって研究できる研究グループを用意しています。多くのお客様において、この研究部会活動をIT部門の人材育成・人脈形成の場として、ご活用いただいております。

今年度の研究部会活動が5月から始まるのに合わせて、研究部会メンバの募集を開始しました。今年も旬なITトレンドや、若手向けからマネジメント層向けまで、さまざまな研究テーマを用意して、会員の皆さまの参加をお待ちしております。

平成30年度の主なスケジュールをご紹介します

		<人材育成・異業種交流の場>	<情報提供・人脈形成の場>
		研究部会活動	マネジメント研究会・ITフォーラム
平成30年	5月	春の全体会 平成30年度 活動開始	マネジメント研究会 全国のマネジメント層の方向けにマネジメントの立場から見たITにまつわる最新の話題を幅広く取り上げ、情報交換を行います。 (東日本・中部・西日本・九州の各地でそれぞれ1回/年間4回開催)
	6月	会合 研究グループごと に月1-2回集まり、テーマに沿って研究を進めます。	
	7月		
	8月	合宿	
	9月	1泊2日での合宿を行います。研究を深めつつ、研究メンバ同士の親睦を深めます。	
	10月		
平成31年	11月	グループリーダ会議	ITフォーラム 旬な話題をテーマに、参加者同士で意見交換や討議を行います。 (東日本・中部・西日本・九州の各地でそれぞれ2-3回開催)
	12月	冬の全体会	
	1月	研究活動の中間チェックを行います。	
	2月		
	3月	ユーザシンポジウム 1年間の活動の総決算として、定時総会・各研究グループによる活動成果の発表・ユーザ企業様による事例発表・マネジメントセッションなどをお届けします。	

東日本、中部、西日本、九州の4地区で全34テーマの研究活動を予定しています。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。来年3月のUNIRITAユーザシンポジウムで活動成果を発表し、一緒に盛り上がりましょう!

研究テーマの詳細・お申し込みはこちら <http://www.uniritouser.jp/theme/h30/index.html>

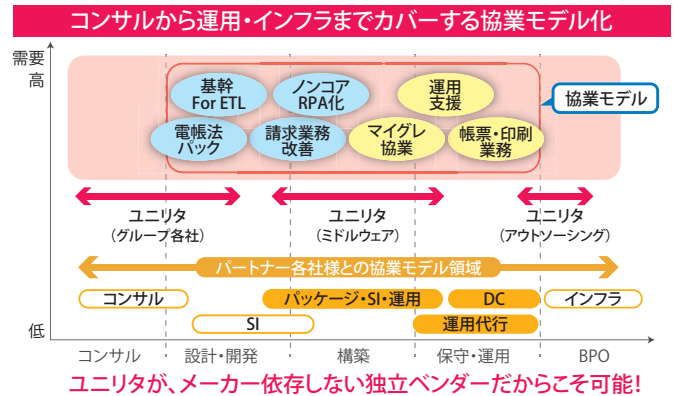
2018年度もパートナーの皆さまと共に コンサルから運用・インフラまで カバーする提案を目指して

2018年4月がスタートし、正規パートナー様が97社、パートナー様との協業モデルは40を超えました。

ユニリタでは、他社には無いユニークな価値をお客様に提供するため、パートナー様がご持ちの製品・サービス・ノウハウとユニリタの製品・サービス・ノウハウを組み合わせた協業モデルを提供しています。

パートナー様と、ユニリタが得意としているコンサルから運用・インフラまで、幅広い製品・サービス・ノウハウを組み合わせることで新たな付加価値を見出し、他社にないユニークなビジネスモデルを創り出します。最終的にユーザ企業様に価値あるサービスを提供していくことが「協業モデル化」の大きな目的です。

ユニリタは、今年度もパートナー様との「協業モデル化」を推進し、お客様に新たな価値を提供していきますので、ご期待ください。



第35回UNIRITAユーザシンポジウムにて (2018.3.1 ~ 3.3)

3月1~3日に開催された第35回UNIRITAユーザシンポジウムでは22社のパートナー様にブースのご出展をいただき、新しいソリューションをご紹介いただきました。



パートナー様によるブース出展



協賛パートナー PRタイム



パートナーセッション

ユニリタと新しいビジネスモデルを作ませんか?

ユニリタでは、パートナー様のビジネスに合わせた柔軟な協業モデルやサービス形態を提案し、販売活動を全面的に支援します。弊社との協業モデル構築にご興味ございましたら、お気軽にご相談ください。

弊社製品のお取り扱い、およびパートナービジネスについてのお問い合わせは、パートナービジネス部 (up@unirita.co.jp) までお問い合わせください。

パートナー様

- 各社様が得意とする独自のビジネスモデル
- 業界、業種特有のナレッジや情報の共有
- お客様の要求に応えるSI

協業モデル



ユニリタ

- 新規需要と関連性が高く、シェアの高い製品群
- 基幹系システムのノウハウ
- 国内最大規模の2つのネットワークコミュニティ

2018年度パートナービジネス部 メンバを紹介します!

各営業所によるご支援

西日本 UNIRITA+

小野 中西 三澤

西日本 ユニリタプラス (2017/4~)

東日本 本社 名古屋事業所

東日本 UNIRITA

金子 加藤 瀬木 田中 水原 市川 金具 小柳 若松

NEWメンバ



株式会社 ユニリタ www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383
名古屋事業所 〒451-0045 名古屋市中区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(1B48KTビル) TEL 052-561-6808

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ
株式会社ユニ・トラント / 株式会社ユニリタプラス / 株式会社無限

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。